

友愛訪問で お弁当をお届け

あじさいの会

市内には、一人暮らしのお年寄りの栄養改善や安否確認のために、ボランティアで弁当を配布している団体があります。

有漢地区のあじさいの会では、今年4月から毎週水曜日に、75歳以上の一



お弁当を受け取る山縣さん



会長の加藤さん

人暮らしのお年寄りや障害を持つ人へお弁当をお届けしています。

120人の会員が60食を超える弁当を、地域を8つに分けて配っています。午後3時から2時間くらいにかけて一軒一軒を回り、必ず手渡ししています。「配るのが少し遅くなると催促の電話がかかってくることもあります。楽しみに待っていたいているんですね。あなたも頑張つてと、こちらが励まされる時もあるんですよ」と会長の加藤淑子さん(70)。利用者の山縣貞子さん(95)は「大変ありがたいことで助かっています。味も量もちょうどいいですよ」と毎週楽しみにされています。

高齢者をサポート

一人暮らしや、移動手段を持たないなど、高齢者は生活する上で、さまざまな悩みや不安を抱えています。

市内では、地域の皆さんによってこうした高齢者の生活をサポートする支援活動も行われています。

地域の交通手段として

西山福祉のむら委員会



月1回サービスを利用している小田さん

る有償の外出支援サービスです。

備中地域では、運行は住民ボランティア組織によって行われています。

西山福祉のむら委員会は、現在、15人のボランティアが交代で運転し、19人が利用。

市内ほか、新見市、東城町(広島県)の病院・診療所へも送迎しており、昨年度は年間約120回の運行で、延べ256人の利用がありました。

3カ月ごとの運行計画を立て、事前に運転者・利用者に周知。運転者の交代、利用日の変更・中止など、相互の連絡を徹底しています。

「道路運送法が一部改正されたことで、認定講習の修了など、運転者の従事要件が以前より厳しくなりました。

限られた人数で円滑に運行するために、利用者の皆さんにも連絡の徹底をお願いしています」と会長の藤井勲さん(69)。

利用者の小田早苗さん(70)は「以前はバスを利用して一日がかりの通院でした。移送サービスは時間に合わせた送迎をしてもらえ、大変感謝しています」と話されています。

福祉移送サービス事業は、通院などの外出が困難な高齢者や障害者に対して、利用回数に限度を定め

て、市が社会福祉協議会に委託して行っている



会長の藤井さん



認知症サポーター養成講座を受講した皆さん(8月28日、有漢農業構造改善センター)

あなたも認知症サポーターになりませんか
 現在、市の認知症サポーターは115人(8月30日現在)

市は、認知症に対する偏見や誤解をなくすとともに、認知症になっても尊厳を持って地域で暮らし続けることができるよう、認知症の人とその家族の応援者となる認知症サポーターを養成

する講座を開催しています。

どうしたら認知症サポーターになれるの

認知症サポーターになるためには、養成講座を受講していただきます。この講座は、キャラバンメイト(進行・講師役)が教材を使ってミニ学習会を行います。受講修了後、認知症サポーターの証であるオレンジリング(ブレスレット)をお渡しします。

認知症サポーターの役割

認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族に対し温かい目で見守る応援者です。友人や自分の家族に認知症について正しく伝える、また認知症になった人やその家族の気持ちを理解して可能な範囲で手助けするなど、認知症の人を地域で支えるという視点で、サポーターとしてできることを行います。



熱演の「劇団やたか」の皆さん

認知症を知ろう

8月31日 川上総合学習センター

川上地域認知症研修会実行委員会主催で、認知症研修会が行われました。認知症に関する知識を深めてもらおうと毎年行っており、今年で4回目。介護予防活動を行うNPO法人「芸南たすけあい」代表の田中久江さん(東広島市)が、「笑いで健康アップ～認知症なんてこわくない～」と題して講演し、約500人の参加者は熱心に聴き入っていました。また、川上町高山地区の住民による「劇団やたか」が振り込め詐欺防止を呼びかける劇を披露し、会場は笑いの渦に包まれていました。

キャラバンメイトの
原田さん(左)と佐藤さん



養成講座にキャラバンメイトを派遣

認知症サポーター養成講座の受講を希望される団体・グループ(10人以上)に、キャラバンメイトを派遣します。地域包括支援センターへお問い合わせください。

■問い合わせ 地域包括支援センター
 (TEL) 210300